

寂しいまち

駅前を出た広い通り
薄曇りの中を
綺麗すぎるインターロッキング
動かない空間

あれは随分前の夏の日
甲子園ゆく高校野球部

喜びが伝わる音
商店街の放送
その音聞きながらかじってた
ソフトクリームの皮
そう二人で

若かったあの頃確かに
たくさんの通りすがり
全く気にせず歩いた道
本当にこのまちなのか

今横目でやっひとりの人
背をかがめて立ちすくんでいる

その姿を見ないで
わざと遠く見つめて
目的あるような顔をして
足早に通り過ぎる
そう一人で